

光センサータンパク質の分子特性と その光受容機能への寄与

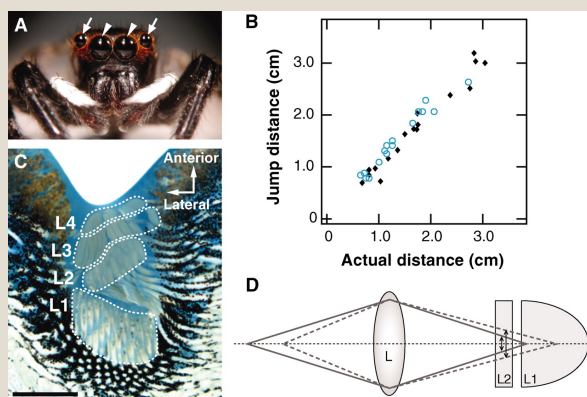
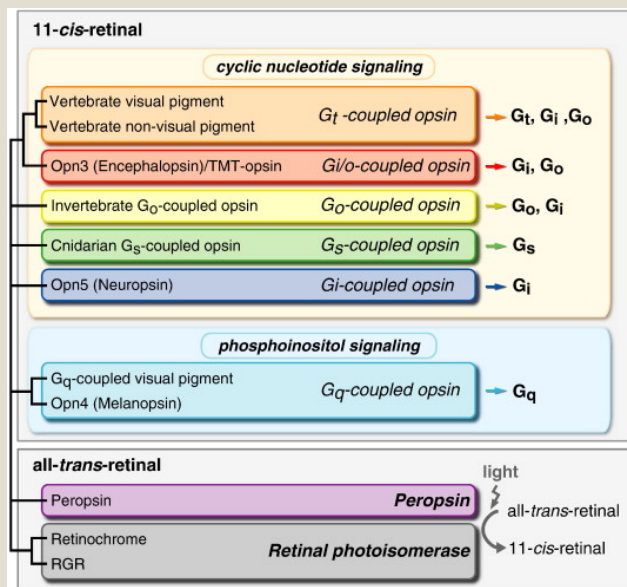
講師：寺北 明久 先生

大阪市立大学大学院理学研究科・教授

日時：10月28日(金) 16:30-18:00

場所：理学部A館2階 222号室

多くの動物は光受容タンパク質であるオプシンにより光を捉え、その光情報を形や色を見る視覚に利用したり、生体リズムの光調節などの視覚以外の機能調節（非視覚）等にも利用している。これまでに、数千のオプシンがさまざまな動物に同定され、動物は複数種類のオプシンを持つことが明らかになった。例えば、ヒトは9種類のオプシン遺伝子を持つ。演者は、それぞれのオプシンが持つ分子特性が、どのように、どの程度光受容という機能に寄与しているのかについて解析を行ってきた。講演では、下等脊椎動物や無脊椎動物の眼外での光受容にオプシンの分子特性が関わる可能性について議論するとともに、オプシンの波長感受性がハエトリグモの奥行き知覚に大きく寄与していることを紹介する。



世話人：
名古屋大学生物機能開発利用研究センター
日比正彦（内線5198、hibi@bio.nagoya-u.ac.jp）